

世の習いがひっくり返される**ルカ6:17~26 / 李正雨師**

最近、教会では、デジタル化した世界に合わせてスマートフォン教室を始めました。難しいことを学ぶのではなく、スマートフォンの基本的な使い方を学ぶ教室です。しかし、この教室に参加しておられる方々は、アナログに慣れている方々なので、大きな変化を経験しておられると思います。宿題もあり、いつも宿題を出された方が宿題を提出されることもあります。このような変化を受け入れることは、簡単ではないと思います。慣れたことがより便利ですね。しかし確かなことは、この変化によって、新しい世界に出会うことができるということです。私たちの信仰も同じだと思います。信仰生活をしていない時としている時だけでなく、私たちは信仰と共に様々な変化を経験するようになります。変化を求められたこともあり、自らが変化することを望むこともあります。このような変化は、私たちをより深い信仰の世界に案内し、この信仰の中で新たな世界を味わうことができるようにしてくれます。

今日の福音書もこのような変化を語っています。イエス様は弟子たちの中で12人を選び、使徒と名付けられました。そして、彼らを連れて行って、最初になさったことが、今日の福音書に書かれています。私はこのことと教えは、弟子たちが何を求めなければならないのかを示していると思います。イエス様は12使徒たちと共に山から下りると、大勢の人々がイエス様のところに集まってきました。彼らはガリラヤの人だけではありませんでした。ユダヤの全土とエルサレム、ティルスやシドンの海岸地方に住んでいる人々でした。イエス様のことを聞いた人々、つまりイエス様の助けが必要な人々が集まってきたということです。彼らがイエス様について何を聞いたかは、今日の福音書18節に書かれています。「**イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。**」

イエス様は12人の使徒たちにご自分のことについて教えてください。御言葉を教える人、病気や汚れた霊に取りつかれた人々を癒す人であることを教えてください。ところが、このようなことは今、私たちのところでは起こっていません。しかし、これらのことを今の状況と合わせて見てみると、神様の慰めが伝えられたと見ることができると思います。このことは、12使徒たちに何を求めるべきかを教えてくださいましたことだと思います。他のユダヤ人のように、自分たちの繁栄と力のためにメシアに従うのではなく、神様の慰めを伝えるためにメシアに従うこと。これが12使徒たちが求めなければならないこと、12使徒たちに向けたイエス様の最初の教えでした。19節にはイエス様の力と癒しについて書かれています。しかし、別の視点から見ると、多くの人々が神様の慰めを求めているということが分かります。19節の言葉です。「**群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気をいやしていたからである。**」群衆が何とかしてイエス様に、神様の慰めを求めて触れようとしているのです。イエス様は人々には神様の慰めが必要であることを、そして弟子たちがこのことをしなければならないことを教えておられるのです。

この世の多くの人々は、神様の慰めよりも他のところから慰めを受けたいと思っています。お金や力のような目に見えるものから慰められることを望んでいます。彼らが求めているのは、神様の慰めではなく、この世の慰めです。彼らにとっては、世の中の風潮、価値観が神様の慰めより大事です。しかし、このようなことが彼らに真の平安や満足を与えることはできません。なぜなら、この世のものは有限なものであり、私たちも有限だからです。私たちにとっては、命よりも大事なことはないでしょう。命の次は健康でしょう。財産や名誉を失うことは、持ちものの半分を失うことであり、健康を失うことは、すべてを失うことだという言葉もあります。命と健康。この二つは、有限な人間にとって財産や力よりも大事なもののなのです。今日の福音書の中でイエス様の前に集まって来た人々を御覧ください。彼らが望んでいるものは何でしょうか。財産や名誉や力ではありません。神様の言葉を聞くことと癒されることです。これは命と健康に関連している言葉ですね。

実際に財産や力があれば、私たちの人生がより楽になるかもしれないと思います。しかし、それが神様の慰

めに代わることはできません。命に代わることも健康に代わることもできません。イエス様が悪魔に誘惑されたことと、どのように打ち勝ったのかを思い出してください。この世は、目に見えるものをもって私たちに誘惑します。しかし、私たちには目に見えないもの。神様の慰めと永遠の命があります。今は、これらのものが私たちの目には見えないかもしれませんが、最後の日、この世のすべてが消え去るとき、これは私たちにとって大きな力になるのです。この世は消え去りますが、神の国は永遠に続くからです。それでイエス様は、12使徒になった弟子たちに、神様の慰めを最初に見せてくださいます。この世のことではなく、神様のことを求めるのは重要なことであることを教えてくださるためだったと思います。そしてイエス様は幸いと不幸について教えられます。今日の福音書20～26節までの言葉ですが、この言葉は対照を成して書かれています。20節と24節、21節と25節、22節と26節が対照になっています。イエス様はこの対照の言葉を通して、この世の価値観とは全く違うお話をなさいます。この世の習いをひっくり返す言葉だと思えます。

まず、20節と24節を見てみましょう。20節には、イエス様は「目を上げ弟子たちを見て言われた」と書かれています。ここで弟子たちは、12使徒だけではなく、神様の慰めを受けるためにイエス様のところに集まってきた人々を意味します。イエス様は彼らに「貧しい人々が幸いである」と言われます。当時のユダヤ人の社会では、貧しさは神様の祝福ではなく、呪いだと思われていました。彼らは神様に正しく従う者には、祝福が与えられて豊かになり、そうでない者には、呪いが与えられて貧しくなると思っていました。これは、一部の旧約聖書だけに示されていることですが、彼らはこれが正しいことだと思いました。旧約聖書の全体的な教えによると、お金持ちは自分の富をもって貧しい人々を助けなければなりません。富の目的は、この世のことを豊かに享受することにあるのではなく、貧しい人々を助けることにありました。先々週の説教で、ヨベルの年と安息の年について申し上げましたが、このことを必ず守らなければならない者は金持ちたちの方でした。自分の僕と雇い人を休ませるために、50年目の年には、彼らの財産と身分を自由にするために立てられた戒めだからです。しかし、当時の金持ちはこのようなことを守らず、自分の財産も自分のためだけに使いました。それで、イエス様は24節で、富んでいる人が不幸なのは、もう（この世の）慰めを受けているからだと言われました。

それに反して貧しい人々、弱い者たちは神の保護の対象でした。申命記、詩篇、エゼキエル書、イザヤ書などの旧約聖書では、疎外されて貧困な人々に神様の慰めが与えられるという預言が書かれています。だからイエス様は、お金持ちではなく貧しい人に「神の国はあなたがたのものである」と言われたのです。21節と25節も同じ文脈です。貧しくて力もないので飢えている人々、泣いている人々は、神様の慰めによって笑うようになるのです。しかし、豊かで、この世の慰めによって満腹している人々、笑っている人々は悲しみ泣くようになるのです。彼らが神様の戒めに従わなかったからです。

最後に22節と26節で、イエス様は弟子たちが何を自分の幸いなことにするべきかを言われます。人々にほめられることではなく、イエス様によって受けなければならない多くの苦難が彼らの幸いなことになるのです。富のためにイエス様に従うのではなく、正しいことのためにイエス様に従うこと。これによって、憎まれ、追い出され、ののしられ、汚名を着せられることが弟子たちの幸いなことになるのです。それで、弟子たちが求めなければならないのは、この世の慰めではありません。この世のものを求める人々に、イエス様は「あなたがたはもう慰めを受けている」と言われました。私たちの慰めはこの世にあるものではありません。私たちの慰めはただ天にあるものなのです。今日の福音書23節で、イエス様はこう言われます。「その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。」

イエス様は今日の福音書を通して、この世の習いをひっくり返されました。世の習いは神様の国では通じません。そして、決して私たちに慰めにもならないのです。イエス様は使徒になった弟子たちに、最初にこのことを教えてくださいました。この言葉が私たちに何を教えているのでしょうか。真の幸いなことを求めていかれる皆様に神様の導きがありますように。いつも信仰の変化を経験する私たちになりますように、主の御名によって祈ります。アーメン